

レンコン産地への支援

高度技術支援課 園芸担当

ねらい

県内で栽培されているレンコンの主な品種は「備中」種で、品質がよく、市場の評価が高い反面、晩生種であることから、レンコンが肥大する前に台風が襲来すると地上部が傷み、収量や品質が低下するため問題となっています。

そこで、徳島県立農林水産総合技術支援センター農産園芸研究課が育成した新品種「阿波白秀」を普及することにより、台風被害の軽減を図ります。

活動地域・対象

地域：鳴門市、松茂町、北島町、藍住町、板野町、徳島市

対象：レンコン栽培農家

普及活動の目標

新品種「阿波白秀」の種苗供給体制の確立と現地への普及

- ・「阿波白秀」種苗供給農家の育成
- ・「阿波白秀」導入モデル農家の育成

目標に向けた活動概要

1 「阿波白秀」の種苗安定供給体制の確立

れんこんの種苗は自家増殖がほとんどで、民間業者での種苗の販売もないため、新品種の普及のためには種苗を安定供給できる体制の整備が重要となります。

そこで、JA等関係機関による担当者会を開催し、生産供給計画を策定するとともに、新品種の増殖のための種苗の配布についての協議を行いました。



図1 レンコン担当者会の開催

2 実証ほの設置

「阿波白秀」を農業者の方に実際に見ていただき、知ってもらうことを目的に、実証展示のためのほ場を設置しました。

また、JA営農指導員、農産園芸研究課等関係機関と実証ほを巡回し、栽培状況等の把握に努めました。



図2 実証ほの設置

3 「阿波白秀」の周知活動

平成29年度から令和元年度に配布された種苗は、そのほとんどが自家増殖用に仕向けられましたが、平成30年度、令和元年度は一部市場出荷が行われたことから、出荷内容、市場評価等の結果を生育状況とともに、研修会等の機会を活用して周知を行いました。



図3 研修会での特性紹介

普及活動の成果

【種苗供給農家と種苗供給量】

れんこんの品種が混ざる可能性が少なく、適切な管理ができる生産者・団体を5戸確保することができ、安定的な新品种の種苗が供給できました。

平成28年度から令和元年度までに、徳島県立農林水産総合技術支援センターと種苗供給農家が供給した種苗を合計すると約5 tとなりました。

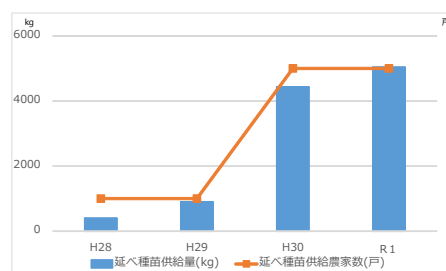


図4 種苗供給農家と種苗供給量の推移

【導入生産者数と推定栽培面積】

「阿波白秀」を導入した生産者は52戸で、推定約7haで栽培が行われています。

【出荷の状況】

平成30年8月2日から9月1日に出荷があった4戸の生産者を調査したところ、同時期の他の品種と同程度またはそれ以上の収量があることがわかりました。

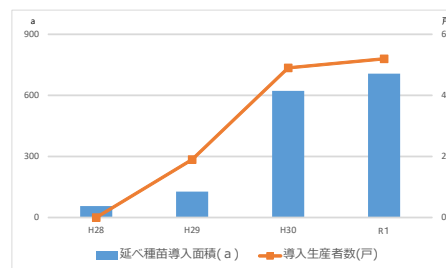


図5 「阿波白秀」導入生産者、栽培面積の推移

表1 「阿波白秀」の栽培管理及び収量

生産者	J A	定植日	面積	管理	収穫日	収量 (t/10a)	対照品種
A	J A 板野郡	3/15	3a	トンネル180cm幅 収穫前カラ刈りなし	8/2~8/8	0.9	備中(8/16~20収穫) 1.2t/10a
B	J A 大津松茂	3/29	4a	ミニトンネル 収穫10日前にカラ刈り	8/5~8/7	1.3	オオジロ(7/30~8/5収穫) 1.2t/10a
C	J A 徳島市	3/26	5a	ミニトンネル 収穫前カラ刈りなし	8/1~8/10	1.6	ロータス(8/11以降) 収量データなし
D	J A 徳島北	3/28	4a	流し 収穫12日前にカラ刈り	8/20~9/1	1.8	ロータス(8/16~8/29) 1.1t/10a

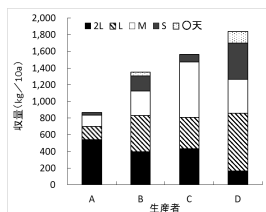


図6 階級別収量



図7 「阿波白秀」出荷似姿

用語説明

「阿波白秀」：徳島県立農林水産総合技術支援センターが育成したれんこんの新品种で、県内の主力品種である「備中」種より1ヶ月程度早く収穫できる。
れんこんの台風被害：露地栽培のれんこんでは7月上旬頃から肥大が始まり、7月から8月の気象条件が収量に大きく影響する。この時期に台風等で茎葉が損傷すると、大幅な減収になるとともに品質が低下する。

今後の発展方向

「阿波白秀」の種苗については、おおむね現地への普及が図られたため、今後は施肥管理等生産の安定に向けた取組みを行います。

関係者からの声

生産者：「備中」種より収穫時期が早く台風被害を軽減できる。
「阿波白秀」にあった施肥等栽培管理方法があれば知りたい。

高度技術支援課

連絡先：徳島県名西郡石井町石井字石井1660 tel：088-674-1922